

# いずみの園だより

vol. 72  
40周年記念号  
2018.6.1



信望愛 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大きいなるものは愛である。 コリントの信徒への手紙 I 13:13

基本理念  
神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする  
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)



「創立40周年、地域に感謝—いずみの園の職員として、誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ挑戦」です。職員一同、新たな地域共生社会、誰もが住みたくなるまち中津の実現を目指して頑張ります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

去る4月30日、いずみの園40周年記念式典・交流会を、来賓160名のご参加をいただき開催しました。40年前、職員26名、入所者(定員)50名でスタートした特別養護老人ホームいずみの園ですが、市民の皆さまの温かいご支援のもと、今日では職員380名、ご利用者2000名を超えるいずみの園に成長することができました。2012年には「いずみの園新5か年プラン」を策定、老人ホームから総合福祉センターに脱皮を図り、高齢者、児童、障がい三福祉体制の「中津総合ケアセンターいずみの園」がスタートしました。式典では、ご来賓の衛藤辰一参議総理補佐官に「地域でNO.1の誇りをもって」と題してお祝いをいただき、岩屋衆議員には「全国の新たなモデルとして」、広瀬勝貞知事「地域共生社会の実現を」、奥塚正典市長「時代の一步先を見据え」、そして元中津副市長、鯨井佳則厚労省四国厚生支局長には「志を実現する人材と経営能力」と題してそれぞれお祝いのお言葉をいただきました。感謝して拝聴しました。

「40周年を感謝—福祉のまちづくりを」



社会福祉法人九州キリスト教  
社会福祉事業団 理事長  
中津総合ケアセンター  
いずみの園 総合施設長  
富永健司

# 2018年度 法人本部事業計画

## 1. 基本方針 『社会福祉法人制度改革と当法人の今後 —新時代の社会福祉法人を目指して』

昨今、少子高齢社会が進展し人口減少、経済縮小の時代に入ったと言われていいます。社会保障費は110兆円を超え、2000年にスタートした介護保険制度も現状のままでは財政的に制度の維持が難しく、社会保障と税の一体改革はさらに進められるでしょう。これからは福祉サービスの基本的見直し、供給体制の効率化、重点化が求められそうです。

さらに2017年4月には社会福祉法が改正され、社会福祉法人制度の抜本的改革が実施されました。経営組織のガバナンスの強化、経営の透明性の確保、社会貢献の責務化等が挙げられました。これまでの社会福祉法人の信頼性や性善説的なものは見直され、一般企業並みの厳しい経営姿勢が問われています。社会保障改革国民会議では「社会福祉法人こそ経営の近代化、合理化が必要」と指摘されました。

介護保険施行によりそれまでの税金丸抱えの措置制度から利用者がサービスを選択する契約制度に変わりました。また規制緩和により一般企業の参入が始まりました。当時のある経営協の幹部は将来を危惧し「社会福祉法人の役割は終わったかも知れない」と述懐、経営協の社会福祉法人経営研究会は「社会福祉法人経営の現状と課題」(2006.9.1)の中で「多角的経営、規模の拡大、合併、事業

の譲渡、質の低い法人・経営者の退出」など今後の課題を挙げていました。

いずみの園は1997～1999年、2000年の介護保険施行を前に「施設改革3か年戦略」をたて①職員の意識改革②多機能化③地域密着④サービスの質の確保⑤経営体質を目標として業務の改革に取り組みました。また介護保険制度が一段落した2012年には「いずみの園新5か年プラン」を策定、障がい事業を開発し中津総合ケアセンターいずみの園を発足させ、福祉の総合化を図りました。地域包括ケアシステムの推進、24時間在宅サービスの整備、共生型のかきぜサポートセンターを完成させました。

今日の少子高齢化社会の進行の中で、子ども子育てが新たな国家的課題となってきました。当法人は社会保障制度の改革の中で、いち早く児童・障がい・高齢者福祉の総合化を図り地域福祉の拠点化を目指してきました。これから保育園はその中心となって社会の要請に応じていきます。行政をはじめ地域関連団体との連携を強化し、誰もが住みたくするような、安全・安心な福祉のまちづくりを当法人の課題とします。

# 2018年度 いずみの園事業計画

## 1. 基本方針 『一創立40周年、地域に感謝— いずみの園の職員としての誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ挑戦』

### 2. 重点課題

#### ①福祉のまちづくり構想（…委員会設置）

- ・中津総合ケアセンターいずみの園構想（高齢者、障がい、児童）の推進
- ・子ども子育て一児童福祉の推進、母子、子ども食堂
- ・在宅高齢者事業研究班 空き家対策—事業化の研究、移住支援
- ・地域公益課—救貧、生活困窮者、引きこもり、就労支援
- ・関係団体との連携強化—行政、学校、医師会、福祉関係、経済関係
- ・今津（駅）サポートセンターの積極的展開
- ・市民ボランティア養成講座「町づくり、人づくり」



#### ②地域包括ケアシステムの推進「住み慣れた地域で最後まで」

- ・定期巡回随時対応（24時間サービス）の強化、全国5位以内へ
- ・小規模多機能事業（寄り合いセンター）の推進、サテライト化
- ・認知症対策—オレンジDr.との連携、認知症カフェ、徘徊模擬訓練
- ・介護予防、元気老人、ボランティア育成、2毛作会

#### ③共生サービス事業の強化

- ・障がい者グループホームの建築（事業開始2019年4月）
- ・就労継続支援事業の推進
- ・サマリア館事業の推進
- ・中津市障がい者等基幹相談支援センター事業の推進

#### ④人材確保、人材育成対策

- ・人材確保策の推進
- ・「やりがいのある仕事、福祉・介護」小中高生介護教室・体験学習教室
- ・高卒職員育成プログラム、エルダー制の充実
- ・韓国、ベトナム出身者の積極採用
- ・WLB（ワークライフバランス）の推進

#### ⑤国際交流、グローバル視点の推進

- ・韓国、ソウル（スンシルサイバー大学、韓端大学）、晋州（国際大学、社会福祉法人道山）、ベトナムとの交流を深め、長期的にアジアの高齢化対策に協力する
- ・欧米、東アジアの大学、社会福祉法人との人材交流をおこない、職員のグローバル意識の育成、相互の介護技術の向上を図る

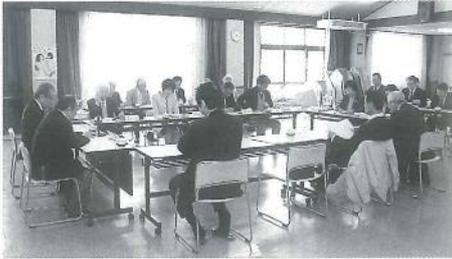


韓国施設との交流

# 2017年度第5回理事会、及び第3回臨時評議員会の開催報告



理事会の様子



評議員会の様子

2017年度第5回理事会が3月15日(木)10:00よりミーティング・ルームで理事8名、監事2名の出席で行われました。理事長の挨拶及び今年度事業総括、来年度の法人事業方針につき説明のあと、2017年度補正(第2次)予算案及び2018年度の事業計画と2018年度予算案について事務局より説明を行い、全会一致で承認されました。続いて各種規程の改正案や理事候補者の交替人事提案と、組織改正並びに施設長等(部長・副園長)の選任が諮られ、全会一致で議決されました。

そして3月24日(土)14:00から「いずみ館」で2017年度の第3回臨時評議員会が行われました。10名の評議員と2名の監事ほかが出席し、今回は定款に基づく議案として、1. 補正(第2次)予算 2. 2018年度事業計画及び予算案 3. 理事の辞任と選任について全会一致で決議されました。続いて、第5回理事会で承認された組織改正及び幹部職員の人事異動の報告その他各種報告が行われました。より一層の福祉の充実、地域に根差した福祉の展開に、これからさらに取り組んで参ります。(総務部)

## 組織関係

2018年4月1日付

- ① 総合施設長の下に「総合施設長補佐」を置き、在宅サービス事業部と共生サービス事業部を統括する。
- ② 「ケアマンション聖愛ホーム」を法人本部事務局の下に置く。
- ③ 経営企画室を「経営企画課」と改め、総務部の下に置く。
- ④ 新任の「かきぜサポートセンター 施設長」を置き、かきぜサポートセンターを統括する。
- ⑤ 「中央サポートセンター」をかきぜサポートセンターの下に置く。
- ⑥ 在宅サービス事業部 介護保険サービスセンターの下に「今津サポートセンター」を新設する。
- ⑦ 「いずみの森」を共生サービス事業部の下に置く。



## 人事関係

2017年11月24日以降

### ① 異動役職者

1月 1日付	河野 和樹	特別養護老人ホーム	看護課 課長
	橋本 晃一	かきぜサポートセンター	デイサービスかきぜ 主任
4月 1日付	有馬 健	総合施設長補佐	
	堂本 高雄	法人本部事務局長	総務部部長 兼務
	谷口 弘美	かきぜサポートセンター	施設長
	尾崎 正史	ケアマンション聖愛ホーム	ホーム長
	枘 真司	特別養護老人ホーム	部長
	伊藤 保幸	在宅サービス事業部	部長
	豊田 毅士	共生サービス事業部	部長
	富永 義道	総務部経営企画課	課長
	重成 智子	特別養護老人ホーム	介護課 課長
	森 光徳	共生サービス事業部	いずみの森 森長
	野見山 晃	在宅サービス事業部	地域公益課 課長
	倉原 未来	特別養護老人ホーム	介護課 主任
	東 久美	特別養護老人ホーム	リハビリ課 主任
	島元 春樹	共生サービス事業部	就労支援事業課 主任
	伊東 成二	ケアマンション聖愛ホーム	主任
	八田 淳子	在宅サービス事業部	デイサービスふれあい館 主任
	今吉日向子	かきぜサポートセンター	中央サポートセンター 主任
	榎澤亜衣子	在宅サービス事業部	中津地域包括支援センター 主任
	瀧澤由美恵	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 主任

4月 1日付	北村 恵	在宅サービス事業部	デイサービスふれんど館 介護員
	長末 直美	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 介護支援専門員
	大木本侑子	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 介護支援専門員
	日高ひろみ	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 介護支援専門員
	梅本 俊一	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 介護支援専門員
	水嶋 宏恵	かきぜサポートセンター	中央サポートセンター 看護師・介護員兼務

### ③ 新採用

12月27日付	松崎 涼子	ケアマンション聖愛ホーム	調理員
1月 9日付	後藤 洋子	共生サービス事業部	相談支援課 事務員
1月15日付	円入 靖代	特別養護老人ホーム	看護課 看護師
	良美 かき	かきぜサポートセンター	寄り合いセンターいずみ 介護員
2月 1日付	鎌倉 聖崇	特別養護老人ホーム	介護課 介護員
	栃木 怜子	在宅サービス事業部	今津サポートセンター 介護支援専門員
	田中 幸江	かきぜサポートセンター	訪問看護課 看護師
2月19日付	大谷 晴美	ケアマンション聖愛ホーム	調理員
2月23日付	花咲 博子	在宅サービス事業部	訪問介護課 ホームヘルパー
3月 1日付	根本由美子	特別養護老人ホーム	看護課 看護師
3月21日付	江本 由香	特別養護老人ホーム	看護課 看護師
3月24日付	三宅 竜文	特別養護老人ホーム	看護課 看護師
3月28日付	上西 久美	共生サービス事業部	いずみの森 介護員
4月 1日付	藤野 はな	特別養護老人ホーム	介護課 介護員
	山本 瑞稀	特別養護老人ホーム	介護課 介護員
	宮崎 真衣	特別養護老人ホーム	リハビリ課 理学療法士
	木下みゆき	在宅サービス事業部	デイサービスふれんど館 作業療法士
	三ヶ尻芳江	かきぜサポートセンター	中央サポートセンター 理学療法士
	長岡 良恵	在宅サービス事業部	中津地域包括支援センター 社会福祉士
	船戸 雪華	共生サービス事業部	就労支援事業課 生活支援員
	佐藤 尚子	かきぜサポートセンター	訪問看護課 看護師
	中村 美樹	在宅サービス事業部	訪問介護課 非常勤ヘルパー
	高橋八代井	在宅サービス事業部	訪問介護課 非常勤ヘルパー
4月 3日付	内納 大佑	特別養護老人ホーム	介護課 介護員
4月 9日付	赤峰 輝美	かきぜサポートセンター	中央サポートセンター 看護師・介護員兼務
5月 1日付	宮村 里美	特別養護老人ホーム	看護課 看護師
	幾留 陽子	特別養護老人ホーム	介護課 介護員
	大邊富士男	かきぜサポートセンター	デイサービスかきぜ 生活相談員・介護員兼務
	定行 勝彦	共生サービス事業部	いずみの森 夜警員
5月8日付	徳光 祐子	特別養護老人ホーム	リハビリ課 歯科衛生士

(以上2018年5月8日まで)

# いずみの園創立40周年記念式典が盛大に行われました。



衛藤晟一参議院議員による祝辞 岩屋毅衆議院議員による祝辞 奥塚正典中津市長による祝辞 藤井性別厚生労働省四国厚生支局長による祝辞 長谷尾雅道大分県福祉保健部長による祝辞



富永理事長による式辞・40年の報告

2018年4月30日(月・祝)に、中津市のウィラルーチェにて「いずみの園創立40周年記念式典」が、157名の方のご出席を受け、無事開催されました。

当日は多くの皆様にお越しいただき誠にありがとうございました。また、これまでの40年の旅路を支えて下さった皆様に感謝申し上げますと共に、これからのいずみの園を温かく見守っていただきたく、この場を借りて改めてお願い申し上げます。次第です。中津市を「福祉のまち」にする、その思いで、職員一同これからより一層取り組んで参ります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

今後とも「九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンターいずみの園」をどうぞよろしくお願い申し上げます。



「リザウンド」によるハンドベル演奏 功労団体へ感謝状贈呈の場面 堤チャブレンによる記念礼拝



中津北高校吹奏楽部によるミニコンサート 絵を寄贈していただきました 花を寄贈していただきました 植木を寄贈していただきました



韓国の福祉施設理事長によるスピーチ 職員も総出でお手伝いしました 会場風景

## 創立40周年によせて

いずみの園は今年で創立40周年を迎えました。昨今、「地域共生社会」の実現が求められています。その先にある住みやすいまちづくりに向け、人とのつながりを大切に、共生への障壁を取り除き、高齢者、障がい児・者、子ども、子育て中の親、地域住民など、多くの方が集い、関わりを持つことができる福祉の拠点となるよう引き続き取り組んでいきます。

私が入職したのは、特別養護老人ホームが50床から100床に増築した翌年の1993年(平成5年)です。その後、時代は措置制度から契約の介護保険制度へ移行しました。制度施行の3年前に現理事長より、「施設改革3カ年戦略」が打ち出され、週に1度の勉強会を行っていました。当時、私は特別養護老人ホームの生活相談員としており、これまでに無い書類の作成や制度の習熟に戸惑いがあったことや、新資格「介護支援専門員」の資格取得に関しては、事業継続には合格が必須で富永理事長と広島での受験対策講座に参加したことを思い出します。



かきせサポートセンター 施設長 谷口 弘美

1994年(平成6年)に特別養護老人ホーム介護員として入職しました。当時は、社会福祉士及び介護福祉士法が制定され間がない時期でもあり、報道にも多く取り上げられ日本の高齢化社会に対する勢いを強く感じる時代でした。その中で、当施設は介護保険制度の導入前より富永理事長の指揮の下で変化・改革に取り組みました。数年の内に施設の雰囲気、職員の意識が変わって行く姿が楽しく感じました。現在は、直接介護を離れ間接的に介護する立場となり、当施設を支えてくださっている各企業様、地域の皆様と関わる事が多くなりました。現場を離れ初めて支えて下さっている皆様の力強さと当施設運営に欠かせない存在であることを痛感いたしました。創立40年を支えてくださった皆様に感謝し、今後も地域の福祉づくりに取り組んでいきます。



法人本部 事務局長 堂本 高雄

2000年には介護保険がスタートし、措置から選択の時代へと変わりました。いずみの園では地域のニーズに応えるべく先駆的に事業が拡大、展開されてきました。その事業展開に自身に関われたことを誇りに思うと同時に、いずみの園40周年後の歩みはこれから先も永遠に続くものであり、先輩方より受け継いだ大切な理念を次の世代へとつなぐ為に誠実に謙虚にいずみの園で出会うすべての人と向き合い、努力していきたいと思っております。



聖愛ホーム ホーム長 尾崎 正史

私は、今から24年前に特別養護老人ホームの介護員として、いずみの園に入職しました。当時のいずみの園は中津市で唯一の特養でした。その頃は「集団ケア」が主体でしたが軽介護の方が多く、レクリエーションなど私にとって、初めての職場で戸惑う事も多くありました。でもご利用者とお話をしたり、お世話をさせて頂いたりした時間がとても楽しかったことを覚えています。

その後は新設事業のケアハウスに異動となり、自立されたご利用者への支援を学びました。これまでいろいろな経験を、たくさんの方との「繋がり」を持たせて頂きました。

今回改めて感じることは、いずみの園は私の経験した24年間だけではなく、40年前からたくさんのご利用者や地域の人々との「繋がり」を大切に、一歩一歩の歩みを進めて今日を迎えてきたということだと思います。これからも抱う私たちも地域の方々と一緒に歩んでいきたいと考えています。



特別養護老人ホーム 施設長 市川 朋克

# 多機能化② —より地域へ 開かれた施設づくり 1988~2005



1988 昭和63年1月 いずみの園デイサービス開設

# 40周年を迎える いずみの園の歩み

第3回

## 地域に感謝

1974(昭和49)年以降、中津市鵜瀬において「グレース保育園」(現在は市内大塚に移転)を開園していましたが、1978(昭和53)年4月10日、社会的に要請されていた老人福祉分野に事業を展開するため、特別養護ホーム「いずみの園」(定員50名)を新築し事業を開始しました。  
シリーズ3回目となる今号では、前号に引き続き「多機能化」のタイトルで、いずみの園がこれまで行ってきた様々な事業を、写真と共に振り返ります。



1990 平成2年9月 訪問入浴サービス事業開始



2000 平成12年  
中津市の委託を受け配食サービス事業を開始



2002 平成14年7月  
認知症グループホーム「ベテルハウス」開設



2002 平成14年8月  
クリニックいずみ開設 通所リハビリセンターいずみ開設



2003 平成15年6月 旧グレース保育園跡地に「デイサービスセンターかきぜ」開設



2005 平成17年4月 ショートステイ増床

# 福祉のまちづくりへの取組

## —生活しやすい中津づくり—

### 第3回：共生サービス事業部

山国川流域である中津平野は旱魃の心配がなかったものの、河口の中津城下が低地でありすぎて、ときに町じゅうが浸水した。(細川)忠興は、山国川の河口右岸に十丁にわたる堤防を築き、それまで東へそそいでいたこの川をいまのように北へそそがせた。そのおかげで浸水がなくなった。『中津称呼考』というふるい書物には、「市井、足ヲ濡ラス有ルノ患、絶工」という表現でそのめでたさをたたえている。

司馬遼太郎 「街道を行く34 中津・宇佐のみち十二」より

「いずみの園」は2013(平成25)年、保育・子育て支援事業、介護保険、障がいサービス事業を包括的に提供する「中津総合ケアセンターいずみの園」と名称を改めました。昨年度の事業計画の中にも『地域との連携—福祉のまちづくり』を重点目標に掲げ、「豊かさ」、「楽しさ」、「生活のしやすさ」のまちづくりに貢献する『中津総合ケアセンターいずみの園』の取組を6回にわたり連載します。



ワークセンターシャロームでは昨年からの、「大分県共同受注センター」からの紹介で宇佐市にあるオリーブ園の除草作業を行っています。「大分県共同受注センター」とは、官公庁や民間企業、個人の方等が、障がい福祉サービス事業所への仕事の依頼方法が分からない時に、発注内容と障がい福祉サービス事業所のマッチングを行い、工賃の向上を目的に設置されています。



共生サービス事業部  
就労支援事業課  
主任 鳥元 春樹

## 地域で働くための取り組み 「ワークセンターシャローム」



除草作業 (オリーブ園)

オリーブ園からは「シャロームのお蔭で綺麗な畑で春を迎えられた。」「一心に作業に取り組み姿や、にこやかな笑顔に励まされた。」と温かい言葉をいただいています。地域のニーズに応え作業を行っていく中で、利用者が「私たちも地域に貢献している。」という実感を持つことができ、地域の方には障がいを持つ方たちへの理解を深めることに繋がっています。

私たちは今後も、地域に根差した事業所運営を行い、利用者が笑顔で働け、やりがいの持てる職場環境を作っていきます。その他にも施設メンテナンスや名刺作成・お米、野菜作りも行っていますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



ヨガ教室の様子

相談支援課では、2017年度より中津市から2つの事業委託を受け、障がいのある方が地域で安心した暮らしを送れるよう事業を行っています。

「中津市障がい者等基幹相談支援センター」では、ワンストップの相談窓口として様々な障がい福祉サービスの情報提供や利用に関する相談に対応しています。また、地域の相談支援専門員と一緒に、地域課題の検討、スキルアップのために講演会・討論会等を企画し開催しています。

「中津市地域活動支援センター」



相談支援課  
主任 西 晃平

## 気軽に相談できるセンターを目指して 「中津市障がい者等基幹相談支援センター」



クッキング (豚汁づくり)

「I型リアン」では、中津市にお住いの障がいのある方の居場所づくりや余暇支援を中心に、市内蜷瀬の「福祉の里センターサマリア館」にて料理教室や外出行事等を企画しています。障がいがあることにより参加が難しい体験を「リアン」で経験することにより、自分にあったやりたいことを見つけてきつかけや「生きる力」になればと思っています。また、リアンでは「障がい者生活支援センターエマオ」が併設されており、生活の困りごとの相談もできるような体制となっています。

私たち相談支援課では、相談支援や余暇支援を通して障がいのある方も社会の一員として自分らしく生活していけるように今後もサポートしていきます。

# 韓国・晋州市の施設、大学と 交流を行っています。

総務部経営企画課 課長 富永 義道

4月10日(火)～12日(木)に、韓国の晋州市を訪問、「社会福祉法人道山」の施設見学と、「韓国国際大学」での講演を行いました。

初日は韓国到着後、道山の職員の皆さんと合流し、道山の高齢者施設の見学を行いました。その後、同法人のジョン理事長と、当法人の富永理事長が双方の相互交流の促進を目的として「協定書」の調印を行いました。

2日目は同法人が経営する病院の施設を見学し、午後には韓国国際大学に到着、富永理事長が「日本の高齢者福祉の課題について」というタイトルで講演を行いました。教室には100名近くの学生が聴講に集まり、また多くの質問も挙がるなど、大盛況のうちに講演を終えることができました。



両理事長記念撮影



施設見学中の様子



晋州市・韓国国際大学での講演風景

「社会福祉法人 道山」とは今後相互の施設の職員との交換研修を行うこと、また「韓国国際大学」とは学生の実習や就職について協力することを約束するなど、2泊3日の訪問期間中様々な人と出会い、大変実りのある訪問となりました。

# 「今津サポートセンター」が 開所しました。

在宅サービス事業部 部長 伊藤 保幸

居宅介護支援事業所「今津サポートセンターいずみの園」が、3月28日(水)に、中津市長をはじめとする行政の方、JR九州の関係者の方、また地域の自治委員など、多くの皆様のご出席の下、無事開所式を迎えることができました。当日は暖かな春の陽気に包まれ、ほぼ満開の桜に見守られながらの開所式となりました。初めにチャブレンによる奉献式の礼拝、その後当法人の富永理事長の挨拶、次に来賓を代表して中津市長はじめ3名



開所式の様子



建物全景

「今津サポートセンターいずみの園」は無入駅となった「今津駅」の駅舎を利用して開設された全国的にも珍しい居宅介護支援事業所で、4月より事業を開始しています。お近くにお越しの際はどうぞお気軽にお立ち寄りください。

# 創立40周年記念誌発行

この度の「40周年記念事業」の一環として、「40周年記念誌」を発行いたしました。2016年の12月から取り組みを開始し、無事発行の日を迎えることができました。大変うれしく思っています。当園のホームページ等でも閲覧が可能ですので、どうぞ一度ご覧ください。



# 編集後記

## 40年前の...

いずみの園が設立された1978年、その時日本では何が起きていたのか、少し調べてみました。日中平和友好条約締結、第一次大平内閣誕生に「ザ・ベストテン」放送開始、翌年には第二次オイルショックと、また生前の私にとってはさながら日本近代史の講義を受けているような気分になります。当冊子の編集作業を行いながらいずみの園の40年の歴史に触れ、改めて永く続けることの偉大さを認識すると共に、これから先の将来にも「いずみの園」が中津の地に在り続けられるよう、私も頑張っていきたいと考えています。

# 「いずみの園新任職員歓迎会」が行われました。

いずみ会 会長 橋田 要介



会場風景

引き続き、昨年12月以降に入職した24名の新任職員の紹介及び勤続10年・15年・20年・25年職員への永年勤続表彰が行われました。その後、新任職員による余興や部署対抗歌合戦など、約2時間30分にわたる楽しいひとときを過ごしました。

4月13日(金)19:00より、「いずみ会(職員互助会)」主催の「2018年度いずみの園新任職員歓迎会」が、中津市内のホテルにて行われました。当日は、業務等で出席できない人を除き、251名が参加しました。まず富永理事長より「新入職員の皆様入職おめでとうございます。本年はいずみの園開設40周年を迎える記念すべき年。改めて地域に感謝し、これからも共に歩んで行きましょう。」との挨拶がありました。



新人代表挨拶